1217赤旗

北海道

食料支援続ける民青

コロナ禍のもとで苦しんでいる青年学生を救おう―。日本民主青年同盟北海道委員会は食料支援活動を続けてきました。その思いと青年たちの実情は―。

若者BOX ワカモノボックス ワイド

コロナ禍で苦しむ学生を救いたい

好評だったフード・ドライブ＝11月7日、北海道帯広市

民青北海道委員会が、道内で最初の学生向け食料支援に取り組んだのは8月23日でした。民青の会議で「シフトを減らされ今月の給料が2千円だった」という学生同盟員や「バイトをクビになり収入がなくなった」と友人から連絡を受けた同盟員らが深刻な実態を出してきたのがきっかけでした。「これは氷山の一角だ。学生の生活苦は広がっている」と議論が進み、江別、旭川、室蘭3市で食料支援がおこなわれました。

バイト減り 実家帰れず

どれだけの学生が来てくれるか想像がつかず、無料で食料を配布する活動が学生にどう受け止められるのか。やってみると取り越し苦労に終わりました。どの会場も30～80人の学生が来場しました。

学生の実態は想像以上に深刻でした。「バイトが減り、実家にも帰られず本当に助かります」とほっとした表情で食料品や日用品を袋に詰める学生たち。

民青が学生から聞き取ったアンケートは200件を超えました。

「ダブルワークをしていたが、一つが契約を切られてしまった。奨学金を返せず、申請中。病院に通わなければならなくて、医療費を払うとギリギリか親の援助が必要」

「バイトが減り、収入が減ったので一人暮らしの生活が厳しい。学校からの給付金がもらえず残念でした。全員が平等にもらえるようにしてほしかった」

「北海道に引っ越して来てからほとんど一人でした。半年以上、頼れる人もいない土地で独りぼっちの生活を強いられていたのです。

思い・悩み語り合う場に

どっさり持ち込まれた食料を選ぶ学生たち＝10月26日、北海道室蘭市

声をあげて 望む社会へ

学生食料支援で、困っている人をほうっておけない、おかしいことには声をあげる青年たち。食料支援の中心を担っているのは、民青同盟員と10～30代の青年学生です。

ボランティアの呼びかけに応えてくれる学生が必ず現れ、一緒に汗を流してくれるのが特徴です。

札幌市での食料支援にボランティアで参加したある学生は、自らも大変な生活を強いられながらも、訪れた学生を元気よく励まし、今度は無料塾の講師も名乗り出ました。

民青は会場での学生との対話を大事にしています。大学生活の不安や政治への不満、学生が日ごろの悩みを打ち明ける“居場所”になっていたケースも。

インターネットで民青を調べて「安心した」と参加で選んで取っていく形式ですが、逸脱する学生に声をかけるのもおとなの役割です。「これも持って行きなさい」「これはすごくおいしいよ」「野菜もたくさん食べてね」との声が飛び交い、ここは市場かデパ地下かといった感じです。

手伝いに来ていた女性は、食料を袋に詰める学生をそっと見つめて「学生がこんなに大変になっているとは」と涙を流しました。

ボランティアに参加した青年たちは、若い世代のなかに呪縛のようにあった“自己責任”が崩れ始めたと感じています。みんなと手を携え、希望が持てる未来を開いていきたい、と語っています。

“自己責任”呪縛崩れた

もう一つの特徴は、青年・学生のために喜んで立ち上がるおとなたちの存在です。

「しんぶん赤旗」読者や後援会員から募金や物資が寄せられ、募金とともに、たくさんの応援メッセージが書き込まれています。農家からどっさり新鮮な野菜が届きました。

教会が駐車場と施設を提供し、ある保育園はテントを貸し出してくれました。大学の目の前にあるアパートの大家さんが敷地を貸してくれ、3回も開催しました。

食料は好きなものを自分で選んで取っていく形式ですが、逸脱する学生に声をかけるのもおとなの役割です。「これも持って行きなさい」「これはすごくおいしいよ」「野菜もたくさん食べてね」との声が飛び交い、ここは市場かデパ地下かといった感じです。

手伝いに来ていた女性は、食料を袋に詰める学生をそっと見つめて「学生がこんなに大変になっているとは」と涙を流しました。

ボランティアに参加した青年たちは、若い世代のなかに呪縛のようにあった“自己責任”が崩れ始めたと感じています。みんなと手を携え、希望が持てる未来を開いていきたい、と語っています。

対話 政権交代へ

対話してみると、“政権交代”に違和感がないことです。自分たちが望む新しい社会はどんな社会か、政権交代が実現したその先の夢を語っています。

「学費が高いのはおかしい」「労働者や生活保護利用者が大切にされる社会にしたい」「消費税は疑問。富裕層からもっととるべき」と語る学生に新鮮な刺激を受けました。

した学生もいます。「学生の苦しみの根本に、学生に冷たい政治の問題がある」「一人の力は小さくても集まれば大きな力になる。いま声をあげることは、コロナ後に青年が希望をもって生きられる社会をつくることにつながる」と呼びかけ、学生に寄り添う民青は信頼される存在になっています。